

直方市
教育大綱
未来を拓く

教育委員会だより

直方の教育

お問い合わせ▽学校教育課 TEL 25-2323

全国学力・学習状況調査結果から

学校教育課

本年4月17日に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施された、全国学力・学習状況調査の結果が発表されました。

この発表に基づき、全国と比較した、本市の児童生徒の状況を報告します。

1 調査結果概要

下のグラフをご覧いただくと、図1は小学6年、図2は中学3年の経年変化を表しています。小学校では令和6年まで2教科とも上昇傾向でしたが、今年度は下降しました。中学校では、国語は令和4年、数学は令和5年から下降傾向です。

問題別の正答率を比較しても、ほとんどの問題で全国平均を下回っており、基礎的な問題、発展的な問題どちらにも課題が見られます。

また、質問調査の項目である「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」は年々時間が短くなっており、全国平均との開きも年々大きくなっています。

図1 小学校の推移

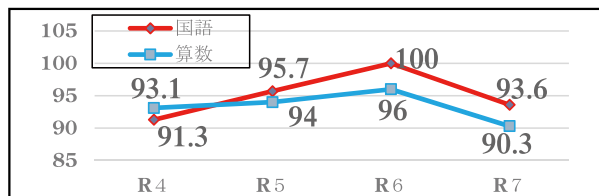
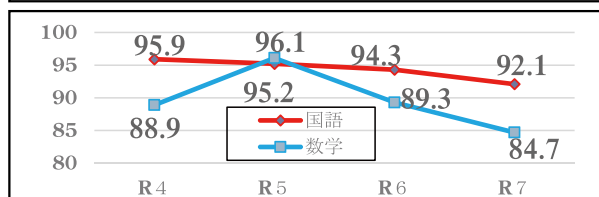


図2 中学校の推移



数値は全国の平均得点率を100としたときの本市の得点率を表したものです。
各年の全国学力・学習状況調査の結果のため同一集団の推移ではありません。

2 取組の成果と今後に向けて

本市では、学力向上重点取組として次の3点を掲げています。

1 「めあて」から「ふりかえり」までの流れを意識した**授業づくり**と**ICTの活用**

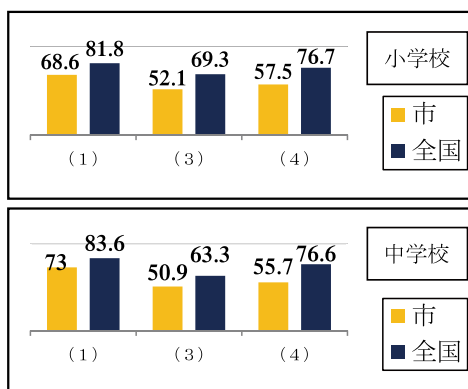
2 帯学習等の補充的な学習の中での**集中力の育成**

3 **家庭学習**の習慣化と内容の充実

ICTについては、質問項目「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」において、近年、肯定的な回答の割合が上昇していま

す。しかしながら、左に示している今年度新たに追加された項目は全国平均を下回っていることがわかりました。

図3 ICTに関する質問調査



あなたは自分がPC・タブレットなどのICT 機器を使って次のことができると感じますか。

- (1) 文章を作成する(文字、コメントを書くなど)
- (3) 情報を整理する
(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)
- (4) 学校のプレゼンテーション(発表のスライド)を作成する

これらのことから、ICTの活用は進んでいます。情報活用能力の育成には課題があると言えます。今年度の学力調査にも情報活用能力が問われる問題が多く出題されました。あふれる情報に囲まれたこれからの時代を生き抜く子どもたちには情報活用能力が必要です。

本市でも今年度、各発達段階での情報活用能力の指標となる「情報活用能力体系表」を作成し、各学校での活用を推進しているところです。

また、家庭学習においても習慣化と内容の充実が図れるよう、家庭と連携しながら取り組んでいきます。

「直方市中高生海外派遣事業」 の報告

学校教育課

直方市の未来を担うグローバルな人材を育成するため、市内中高生を海外へ派遣する事業を行いました。派遣先は昨年と同じくフィンランドで、期間は8月17日（日）から8月24日（日）でした。

本事業の目的は、異文化理解を深めるだけでなく、自ら社会課題を見つけ課題解決に向かってチャレンジしたり、他者との協働により解決策を探索したりすることができる知識・能力・姿勢を身につけ、グローバル社会を生き抜くために必要な「生きる力」を育むことにあります。

期間は8日間ですが、前後の各1日は移動時間で、実際には6日間のプログラムでした。

首都ヘルシンキは最高気温が20℃を少し下回る程度。バルト海に面した港町で風が吹くと少し肌寒い気候でした。

研修の様子を一部紹介します。

【1日目】現地到着後は森へ移動し、さっそくネイチャープログラムを体験。フィンランドには自然を自由に散策し、楽しむことができる「自然享受権」があります。自然の美しさや広さを感じ、自然の恵みに触れました。リラククスして自分と向き合い、一人ひとりの感性を共有しました。



自生のブルーベリー

【2日目】森から一転、首都ヘルシンキの都市部へ。北欧デザインの建築が並ぶ街並みを望み移動しました。

建物が波打つような外観が印象的なヘルシンキ中央図書館「Oodi」ではフィンランドの文化や価値観を体験。「市民の交流のためのリビングルーム」をコンセ

プトとした施設で、都市空間の役割や暮らしを豊かにするデザインやサービスを考える機会となりました。

【3日目】グループに分かれて街頭インタビューにチャレンジ。身振り手振りを使ったり、回答をスケッチブックに書いてもらったりなど工夫が見られます。時間が経つにつれて意欲が高まり、多くの街ゆく人々に声をかけていました。異なる文化を持つ方々との会話は新鮮で、参加者の「もう終わり？」との一言が印象的でした。



ヘルシンキ大聖堂
(残念ながら工事中でした)

【4日目】2020年に建てられた新しい小中一貫校を訪問しました。児童・生徒とのコミュニケーションのみにとどまらず、実際に日本語

化を伝える先生役となり授業を実施。渡航前からそれぞれ工夫して楽しく学べるように準備を整え臨みました。英語での説明をやり遂げ、お互いに笑顔で楽しい授業となりました。

【5日目】高校の訪問では現地高校生と学校生活や文化の違いなどについて、対話を通じて交流を深めました。また、「どんな未来を望むか」をテーマに共同作品を作成。幸せに「なろうとする」お互いの考えを伝え合い、言葉と形に変えました。

【6日目】最終日は振り返りを発表。それぞれの学びや気づき、心境の変化を見つめ直し、今の気持ちと未来への想いを言葉にして帰国しました。



入国直後のヴァンター空港にて